

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第 卷七十第

行發日一月九年二十正大

## 論叢

間地稅の觀察點……………法學博士 神戸 正雄

植民地の經濟政策に就きて……………法學博士 山本美越乃

共產の原理……………法學士 恒藤 恭

私經營統計概論……………法學博士 財部 靜治

海運に於ける競争と獨占との分界……………法學士 小島昌太郎

## 時論

農村問題と其對策……………法學博士 河田 嗣郎

## 說苑

シニワーへの法則……………經濟學士 岡崎 文規

壹岐國に於ける地割制度……………農學士 奥田 彥

## 雜錄

百姓と町人……………法學士 本庄榮治郎

獨逸に於ける勞働立法の發達……………經濟學士 中丸 叶

經濟學史上のベッカリア……………經濟學士 小川福太郎

時論

農村問題と其の對策 (下)

河田 嗣 郎

十一 農村生活の荒廢

現時の農村問題には農業々務に關する問題と、農村生活一般に關する問題とが含まれて居るところは、本論の冒頭に之を示した通りで、就中前者には又業務内部に於ける問題と業務全體に關する問題とがあり、此の兩方面に就いては既に大體に於て其の意義を明かにし、又其對策に就いても致へて來た。そこで今取遺された所のは、農村生活一般に關する問題之である。以下少しく之に就いて攷究して見たいと思ふ。

農村生活一般に關する問題は、其の意義頗る廣汎で、之に就いて詳細に講究せんことは、所謂農村社會學の任務とする所でなければならぬ。即ち現代の社會生活に在つては、啻に農村と都會とが分散生活と密集生活といふやうな形態上の相違や、商工業と農業といふやうな産業上の區別

から相分れて居るばかりでなく、農村と都會とは住民の心理、生存に對する態度等に至るまで頗る趣の同一様ならざるものあり、爲めに各相異なる文化を有し、同じ一つの社會内の二區分であり乍ら實は相異なる二社會を形造つて居ると謂ひ得られるほどのものがある。其の結果都市生活に對しての意味に於て農村生活一般に涉つて種々の問題が發生し、それ等が集まつて一つの大きな農村生活問題を形造り、其の社會的意義の頗る重大なるを致しつゝある。然かも其の問題の内容に就いて、一々詮索して攷究せんことは、其の内容が生活一般に涉り、言語、風俗、人口、經濟、信仰、教育等の諸方面から成立つて居る爲めに、總べて此等に涉つて綜合的攷究を爲すを以て任とする所の農村社會學に委ぬる外はないからである。

從て茲には私はたゞ問題に共通なる所のものや、社會政策的の意義に富めるものやに就いて、概括的の攷察を試むるに止めて置く。

仍て之を攷ふるに、現今諸國の農村生活の實狀に於て、問題の動機となり又諸問題に共通なる要素を爲す所のものは、農村住民の農村生活に對する不満足といふことである。即ち現今、世は文明と稱せられ、社會の人々は一般的に文化發達に伴ふ諸多の恩恵に浴し、貴さも賤しきも、富みたるも貧しきも、皆それ相當に生存上の便宜を得、生活の内容を文明的に充實し豊富にするを得る状態に在りとせられて居るに拘らず、その便宜と恩恵とは多く都會にのみ存して、農村の生

活にはあまり其の恩澤の及ばざる實狀あるが爲めに、農村に居住する人々は、内心頗る之を不満足とし、常に農村生活に對して不平を抱き、甚しきに至つては之を嫌惡し呪咀するまでに至つて居る。そして此の不平と嫌惡と呪咀とが、發して諸多の問題と成り、現時の社會生活上に於ける一大脅威たらんとしつゝある。

惟ふに近代の文明が造り成さるゝに就いては、都會の發達といふことは、欠ぐべからざる一件であつた。都會が發達せし爲めに、政治も發達すれば經濟も進歩し、藝術も勃興すれば教育も盛になり、要する現代文化は能く造り成さるゝを得た。そして此等文化の諸方面がよく發達するを得たるに依て又都會は益々發達することとなり、兩者は互に因となり果となつて、終によく現代の麗はしき文化は出現するに至つた。されば現代の文化は、其の精神的內容に於ても其の形態上の文明に於ても、殆んど全く都市的のものと謂ふことが出来る。生産、交易、通信、運輸、教育、娛樂其他諸般の設備に於て、現代の文明が殆んど全く都會文明たるは勿論のこと、思索、學問、藝術、技能等の文化的活動に於ても、現代を指導し現代を代表するものは、殆んど全く都會を舞臺として行はれつゝある。

そして農村はといへば、その文明的諸設備に於て都會に比敵するに足るものなきは勿論のことたゞ僅かに都會の残り物を得て満足せなければならぬ状態に在る。然かもそは都會が專横なる爲

めに文明を獨占するといふのではなく、現代の文明的設備は、都會地であつて甬めて行はれ得、農村の田舎生活には之を行はんとするも技術上や經濟上やの理由から到底行はれ能はざるが爲めなるを思はなくてはならぬ。然るに尙又精神的文化に於ても、現今あらゆる智能技藝は都會に集中せられたる結果、農村の文化標準は都會に比して遙かに低く、半世紀乃至一世紀も後れたるかの觀あり、到底一口には謂ひ得べからざるものがある。

されば現今一國の文化は、全國平均の意味に於ては之を謂ふべからず、一國內には都會の文化と農村の文化とが區分されて對立するを忘れてはならぬ實狀に在る。

尙又現今都會は文明的に益々發達しつゝあるに拘らず、農村は到底之に追從し得ないで、兩者の隔りは段々大きくなりつゝある。斯くて文化上に於ける都鄙の均衡は益々失はれつゝある。然るに更に困つたことには、都會の發達は、人口の關係から觀ても、經濟上から觀ても、又技能才智の方面から觀ても、常に農村の犠牲に於て行はれる實狀あることである。農村は都會の爲めに働き得る人々を供給する養育院として役立つと同時に、都會に於て働き疲れたる老衰者を引受けて之が養老院たる役目を爲す關係が、人口統計の上にも著明である。又農村の貯蓄に依つて造られたる資本は都會に流入して都市の商工業に用ゐられるばかりで、都市より農村に資本の流入する歩合は遙かに少い。又農村に生産されたる穀物其他の農産物は都會の商人の手に依て都會に

於て賣買せられ、その販賣上より生ずる利得の大部分は都會商人の占得する所となる。次に又今や農村に於ては多く技能才智の人が育たないで、その天分ある者は弱年の時から早く都會に出で、都會の天地で育ち、育つた以上は決して農村には歸らず、都會で生存し又よく都會の天地なればこそ、その才能技藝を發揮せしむるを得る有様<sup>ありさま</sup>に在る。要するに總べて斯んな風で、現今都會の發達は農村の犠牲に於て益々十分に行はれ、爲めに農村はさなきだに貧弱なるものが、有形的にも精神的にも更に益々貧弱となり、人と物との両方面から之を觀て、文化の原動力たる營養分は、常に都會に吸収せられ、農村は愈々營養不足の貧血状態に陥り、漸次衰亡に向はざるを得ざる餘儀なき状態に在ること、前にも之に觸れて論示したる所ある通りなりとする。

此の憐むべき農村生活状態に對して、農村に居住する者の心甚だ平かなるを得ず、少くとも心甚だ寂うして、其の不平と寂寞とが、現時の農村生活に關する一般問題の精神的動機を爲すことに見遁すべからざる所に屬する。

斯くて現今文明諸國に通有の現象たる ケラム、ヒキウイユス 農民離村の傾向は、洵に避くべからざる時勢の所産として表はれ來らざるを得ない。斯くても尙ほ ルトラル、テカケンス 農村頽廢の狀況が表はれなかつたとすれば、それは却つて不思議のことではなければならぬ。農民田舎を嫌つて都會生活に憬がれ相率ひて都門に走り、農村は有爲の人口と併せて資本を失つて、漸次荒廢疲弊に陥ること、現今の時勢より之を觀

れば、寧ろ當然至極の現象といはねばならぬ。之が一般社會生活の上に及ぼす影響は、諸多の意義と方面とに於て、想像に餘りある所たらざるを得ない。

## 十一 現代思潮と農村生活

現今農村荒廢の由て來る所は、前に之を論示したやうに、農村經濟の疲弊に存する所多大なりとはいへ、同時に又右に述ぶるが如く、農村住民の心理に原因する所も同様にも多大なるものたるからには、之が對策の致へられるに當つては、此の心理方面に對する十分の考慮が拂はれねばならぬ。即ち農村生活の廢頽は現時の思想的傾向に伴ふ所多大なるからには、農村生活をしてよく堅實に存續せしめん爲めには、現今の時代思想一般に對して、其の薰治を圖る必要がある。

現時のやうに時代の一般的傾向が極端なる物質尊重に傾き、あまりに人生の物質的方面を尊重する結果、經濟價值を之れ重んじ、その經濟價值の表象たる貨幣を過重し、極端なる拜金熱に冒されて、經濟といへば金儲、金儲でなければ夜も日も明けぬやう考へて、猫も杓子も金儲にばかり奔走するやうであつては、其の金儲に縁の薄い農村生活の厭はるゝに至るは洵に免れ難き所なりとする。人も知る如く田舎の生産經濟は殆んど農業を専らとし、其の農業なるものは、前に之を示したやうに、元來營利企業として不適當なもので、従て薄利に甘んじ業務を樂む氣分を以て

するにあらざれば安んじて之に従事することの出來ぬものであるからには、現時の極端なる營利主義と拜金熱との醒めざる限り、農村經濟の安立すべき筈はないが、之れ必竟するに現代の人々が餘りに人生の物的方面を尊重し過ぎ、經濟價値に餘り優越の地位を與へ、他の倫理的價値や審美的價値などに對して、經濟價値を高位に居らしむるからのことたるに外ならぬ。此の人生觀が現代一般の傾向を爲して居る限り、農村生活が不満足に思はれ、漸次に其の荒廢を來すは止むを得ざる所と觀る外はない。されば農村生活を救ふ道としては、此の一般的なる時代思潮の傾向を變じ、人々をして金儲以上に貴き經濟の意義あるを知らしめ、經濟以上に貴き人生の方面あるを知らしめ、その意味に於て時代思想の陶冶を爲すことが、緊急要務たらざるを得ない。

尙又現今の時代は人々が餘りに浮薄なる成熟した時代である。人間を本位に置いて世界觀を立て、人生を肯定し生の喜悅を以て能力の發揮を圖り人生の完成を志すといふやうな、近代の思想の傾向——文藝復興期から啓蒙哲學時代を通じて造り成されたる近代の思想の此傾向は、傾向として呪ふべきものではなく、其の立場には深き倫理的意義あるにしても、現今その傾向が餘りに浮薄に流れて、たゞ只管に有形的な成功なるものを喜び、立身出世すること、富貴榮達すること、面白おかしく一世を送ること、を以て人生の唯一意義と考へ、社會を擧つて此種の成熟に冒され此種の人生觀に捕はれたるが現代の特徴である。そして此の傾向は固より都會の人



々の間に強いけれども、然し現今新聞雜誌などの普及と不徹底なる主義方針の下に行はれる國民教育の普及とは、農村に至るまで此の思想の傾向を普及せしむるに至つた。然るに田舎の人々特に農村の青年が一度此の傾向に捕はれることとなれば、農村の生活は社會的に如何にも狹隘で、立身出世の餘地もなければ富貴榮達の道も通じて居らぬものだから、一概に田舎生活を厭ひ、之を以て生甲斐なき生活と考へ、之を捨て去るを以て人生の意義を成就する所以なるかに考ふるに至るを避くることが出来ぬ。私は現今農村住民の間に離村向都の勢の著明なる第一の理由を爲すものは、此種の人生觀なりと信ずる。されば今農村生活救済の道を致ふるに當つては、此の浮誇なる成功熱を征伐し、その據て立つ基礎を爲す所の輕薄なる人生觀を陶冶して、今少しくしつゝ、かど又深く又もつと大きく高い所から物を觀る氣風を造り成し、同じく人間本位的な觀方でも、もつと人格主義的な觀念の養成さるゝやう、努められなければならぬ。

併しすべて斯の如く時代の思想を動かし人々をして物の考へ方を革めしめん爲めには、哲學其他學問の普及——特にその上滑りならざる又流行的ならざる普及を圖る必要あるは勿論のことだが、同時に頗る大切なことは、國民教育特に所謂普通教育の改善を圖ることたらざるを得ない。現今の實狀のやうに、教育といへばたゞ學問技術を授けることであるといふ風に考へられ、初等普通教育に至るまでその風に感染して、たゞ兒童に讀み書き計算等の術を教へ、進むでは歴史地

理博物外國語等の智識を與ふるを以て能事終れりとするやうであつて、人を人として造り上げ、しつくりした物の考へ方、徹底した物の觀方、大きな高い所から人生の意義を考へるやうな態度に就いては、殆んど全く兒童や青年の陶冶も訓練も行はれて居らぬやうでは、人心一般が段々浮薄になり、教育が普及すればするほど、却つて浮誇な國民的氣風の強くなるに至るを免れ難い。勿論今の普通教育にも倫理教育なるものは存して居るけれども、それがとかく申譯ばかりであつたり、少しも徹底した主義方針が定まつて居なかつたり、また之をも、一の學科として授くるやうであつたりしては、人間を立派な人間らしい氣高い人格として造り上げることは六ヶ敷い。

今の小學校の教科書を見れば、歴史でも地理でも、又修身書に至るまで、兒童の頭に國民的浮誇心を織り込むに適するやうなことがかりが注意されてあるやうに見える。當局者の考では斯くして國民一般に小供の時分から國民たる自覺を與へ、國民としての榮譽を悟らしめんと欲するのだらうけれども、やれ日本は世界一の美しい國だの、やれ日本は有史以來曾て外國の侵略を受けたことのない國だの、我等は日本兒男なり世界で強いは我等なりだのといふやうな風にはかり教へんとする結果、子供は皆お山の大将氣取の浮誇な人間になつてしまふ。又修身書に古今の偉人を説くもよいが、その立身出世の方面ばかりに力が注がれ、形の上に表はれた成功の程度で其八々の偉大さを計る外、兒童はその人々の人格としての偉大さを量り知り得ないやうに出來て居るも

から相だから、之れ亦動もすれば、輕浮なる無自覺なる成功熱を染み込ませしむる手引となるに終る外、多く兒童を人格的に造り上げて行く養となる所なき嫌がある。

それに又現今學校の教師たる者の間にまで所謂成功に憬がれる浮誇的な思想が巢食つて居て、夫子自身既に現代の有形的な發展主義にかぶれ、場合に依つては拜金宗の信者でもあるやうな者の少くない次第だから、學校教育は愈以て輕浮で、動もすれば妄想誇大的のものとなるか、然らざれば不熱心な厭々乍らの授業の行はれる結果、まるで魂の抜けた形ばかりの教育となつてしまふ嫌がある。之は勿論一般的話で、又獨り我國のみに就いてのことでもないが、現今とかく此種の弊風の吹き荒れまんとするものあることは、之を認めねばならぬ。

要するに斯くの如き時代の傾向の認むべきものがあるが爲めに、然かもその傾向は田舎の隅々にまで行渡つた傾向なる爲めに、農村の子女は、教育を受くれば受くるほど、農村の生活を厭ひ、志を立て、郷關を出でんとする風が、年に月に旺盛に向ひつゝある。

されば今農村生活を救はん爲めには、やはり此の一般的なる弊風に着眼して、其の一般的な氣風に對して矯正の道を致へなければならぬ。そしてその爲めには、今少しく徹底せる人格主義的な教育が、今少し深き倫理的見地の下に行はれる必要がある。教育の遺方は此儘にして置き、從て人心の傾向も今のまゝに進ましめて置き乍ら、たゞ農村生活をればかりを彼此いつて、その改

善を圖りその荒廢を防がうとして見た所が、それは到底目的を達し得るものでない。特に國民普通教育の改善の爲めに、師範教育を改善し、先づしつかりした良き教師を造つて、國民一般を子供の時分からしつかりした人格として造り上げ、もつと人生を眞面目に考へ高く大きな所へ眼を着けて、ごつしりと人生價値の發揮を志すやうな氣風が、社會一般に造り成さるゝに至るに努められねばならぬ。

從來とかく此の根本義が忘れられて、一般の氣風は其儘に益々傾斜せしめ乍ら、たゞ農村生活ばかりに就いて然かもその有形方面ばかりに就いて改善を施し、依て以て農村生活の救済を成就し得べしと信せられた。私は之が大きな見當違いだと思ふ。今の人々は娛樂がすきだから田舎にも盆踊を復活せなければならぬ、活動寫眞館を造らねばならぬ、今の人々は拜金のものだから田舎の産業をも儲の多いものに造り變へなければならぬ——と斯ういつたやうな考方はかりが從來廣く行はれて來た。然しその行方では到底農村が都會に追從して進むものではなく、然かも兩者間に大いなる懸隔の存する限りは、その不平均が終に農村を亡ぼす迄大とならざれば止まざらんとする現今の趨勢を、如何ともすべき由がない。やはり救済は本を革めるが必要である。その本としては時代の思想の傾向ほど根本的なものなきこと、吳々も注意すべき所に屬する。

## 十三 農村に於ける文化的施設の缺乏

思潮の上より之を觀て、現今農村生活が漸次荒廢に傾くの止むを得ざるものあること上の如くなるに加へて、物質文明の上より觀たる諸般の施設に於ても、現今文明といふ文明は悉く都會に集中せられ、農村は十分に文明の恩澤に浴し能はざる爲めに、農村の住民は其の農村生活に安住し得ないで、滔々として都會に向つて流れ出づるものなりとせば、之が救済の爲めには又どうしても物質的施設に於て都鄙平均の方策が講ぜられねばならぬ。そして其の平均は言ふ迄もなく田舎の文明化に依て行はるべきである。文明上に於ける現今の中央集權主義を打破し、文化施設を地方に普及すること之である。

然らば文化施設の地方普及は何に依て行はるべきかといふに、現今文化の諸施設が餘りに甚しく都會に偏集して居る爲めに、何れよりして先づ之を論じ、何れのことを爲すを以て急務とすと謂ふべきかに就いて、迷なき能はざるほどの有様である。茲にはたゞ思ひ付かるゝ二三の重要點に就いて論示するに止めて置かう。

惟ふに現今農村の住民が文化的施設に於て其の缺けたるが爲めに最も不便を感じつゝある所のものは、醫療と教育とでなければならぬ。現代に於ける醫療の著大なる進歩は、計り知るべから

ざるほどの恩澤を國民一般生活の上に齎らした。けれども實際に於ては、國民一般生活といつた所でそれはやはり都市住民を主とし、都會には立派な病院もあれば熟練の醫師も多數にあるけれども、農村には病院もなければ、お醫者さんとても學問も薄く技術も劣つたのが大多數で、兩者の懸隔の大なるを否み難い。此の状態は農村住民の最も不便とする所で、都會に住つて居たならば容易に治癒したであらうやうな病氣も、農村に居る爲めに救はれなかつたり長びいたりするし又農村から療養の爲めに都會の病院にでも行けば、多大の費用と心勞とを要する。現今都會の人々が田舎に移り住むことを醫療の不便なる理由で敢てし得ざる場合少からざるが如く、農村の住民が都會に移り住まむと欲し又農村に住ひ乍らも常に不安を懐く所の有力なる理由の一として此の醫療の不便といふことの存するを忘れてはならぬ。

次に教育の方面に關しても、現今中等以上の教育特に専門教育が都會地に於て設備せられ、此等の學校は大抵都會地に在り、農村の住民は子弟を専門的に教育せん爲めには、之を家庭より離して都會地に送らなければならぬ有様なること、亦實に農村住民の不便とする所である。殊に我國に在つては、農村の中流以上の者は、競つて子弟の専門教育をする風あり、殆んど無資産の者でも無理をしても教育だけは十分に行はんとする實狀あるが爲めに、農村住民が此點に於て如何ばかり農村生活の不便を感じつゝあるかは、都會に住ひ、其の子弟をば家庭に居らしめたまゝで

高等専門の教育まで受けしむるを得る人々の到底想像し得ざる所なりとする。現今農村に於て子供の二三人も持った人は、其の教育を行はんのみのもので都會に移り住はんと欲する有様にある。此事が他の諸事由と併せ働くが爲めに農民離村特に中産以上の人々の離村の傾向を助長しつつあるは見遁すべからざる所に屬する。

されば今文化施設の都鄙平均を圖らん爲めには、此等の高さ文化的意義を持てるものに就いて、先づ注意の拂はるべきものあるを思はなくしてはならぬ。

然るに尙ほ此等の事柄と相並むで、農村に於ける人々特には勞働に従事する人々の生存上の文化的惠澤を大にする道として考へられる所のもは、農村に對する社會政策の實行を圖り、社會事業の普及促進を期すべきこと之である。そして此の方面に在つては、農民に對する勞働政策の實行てふことが、方今諸國に於ける緊要の問題たるを謂ひ得られる。即ち少數なる國々を除き從來勞働政策は行はれても、そはたゞ工業勞働者と鑛業及び交通業勞働者とを主とし、農業勞働者に對しては、多く其手の及ばざるを例としたが、斯くては甚だ不公平なるを免れ難いから、今や漸くに農業勞働者に對しても、勞働法規を制定し又種々の政策的實地施設を見るに至らんとしつつある。例へば農業勞働に従事すべき年少者の年齢制限に關する件、女子勞働に關する件、勞働時間に關する件、賃金に關する件等は、國際規約をすら見るに至らんとし、諸國の立法は此の方

面に向つても大に促進せらるゝに至つた。又農業に對する社會保險の如きも漸く廣く行はれんとするに至り、負傷、疾病、失業、廢疾、養老等に涉つて工鑛業其他の労働者に對すると同様に、農業に對しても特別の保險制を造るか、さなくば工鑛業に關する規定を擴げて農業労働者及び労働者類の農業従業者をも包容するものとせんとせられつゝある。

我國に在つては、社會保險としては近頃漸く健康保險法が制定せられたばかりで、まだ其の實施をも見て居ない有様だが、速かに歐洲の先例に追從するに至るを要するは、言を俟たざる所なりとする。そして最も重要なことは、工業其他に對する労働者と同様に農業労働者及び労働者類の農業従業者に對しても、社會保險の手の及ばんこと之である。若し農業者に對して此種の社會政策が及ばないやうでは、それは大變な不公平で、その不公平に對する農民の不滿を買ひ、農民離村の傾向を助長し、農村荒廢の勢の之が爲めにも進めらるべきは、免れ難き所とせなければならぬ。

此種の労働政策と相並んで致へらるべきことは、一般的に農村住民に對する社會事業の實行之である。近頃獨逸其他歐米に在つて、農村に於ける福祉事業ワキシルツァールツ、フレイゲの盛に唱道せられ又實行せられつゝあるは、洵に時勢の要求と謂はねばならぬ。即ち療養、出産等に對する事業、圖書館や娛樂機關設置の事業、其他救貧養老等の事業之であつて、從來此種の社會事業に於ても、兎角都會偏重の



傾が強く、農村は殆んど閑却せられたる風のあつたのは、他の諸事情と相伴つて、農村に於ける文化施設の一般的なる缺乏として、甚しく農村生活を、不安で、貧弱で、低級で、無趣味で、時代後れで生甲斐なきものたらしめた。そして之が爲めに現今の農村生活の荒廢を將來せる所の多大なるを否み難い。此の方面に於ける都鄙平均を圖るは、實に當今の急務たるを知ることが出来る。

#### 十四 都鄙平均の要務

以上私は現今の農村問題に就いて其の一般的意義を明かにし得たと信ずる。論ずる所は獨り我國に於ける問題ばかりではなく、廣く當今の狀態に照して諸國に大體共通のものを見て差支ないが、特に注意の我國の實狀に拂はれたるは申す迄もない。たゞ忘るべからざることは、斯くの如き農村問題は決して我國に特有の現象ではなくて、大體歐洲の舊國には共通の現象であり、北米合衆國の如き新進氣鋭の國柄に在つてさへ、今日に於ては既に我國其の他に於けると略ぼ同一様な農村問題を見るに至りつゝあることである。されば今日の農村問題は世界の文明國には殆んど通有の問題たるを知り得べき次第で、つまり現時の文明一般の狀況と現時の社會經濟狀態とは、そが進めば進むほど、斯くの如き農村問題を發生發展せしめざるを得ざる事由を有するものと見

ることが出来るのである。即ち上に論ずるが如き農村問題の起るは、決して偶然ではなくて、實に現時の文明と經濟とに伴生せざるを得ざるものと見る事が出来るのである。

斯るが故に之に對する方策も亦たゞに農村生活や農業經濟やのそれ自體の改善を圖るだけでは足れりとすべからず、必ずや現時の文化の一般的傾向に對して、特には現時の經濟一般狀況に對して改革の道を致へ、農村生活と農業經濟との狀況を改善する必要あるは勿論だが、それと同時に又右一般の調子を變ずることに依て、よく農村生活と農業經濟とが立行き得べき一般狀態を造り出すに心懸られねばならぬ。そして其の大眼目は、上に諸々の方面に就いて之を述べたやうに都鄙平均の實狀を造り出し、今日の餘りに甚しき都鄙不平均の狀態を革めることに存せざるを得ない。即ち先づ産業的に都鄙の間に甚しき不平均なからしめ、工業の地方分布を行ふことに依つて農工業の連絡を圖ると同時に、進むでは今日の極端なる營利主義の傾向を革め、今少しく必要本位の經濟の行はるゝ、一般狀態が出現されねばならぬ。次には又社會生活上に於ける都鄙の平均が實現されて、今日の文明都會集中の狀態が革まり、都會に在つても田舎に在つても人々は餘り違はない文化生活を營み得る狀態が造り出されねばならぬ。次には又精神生活の上に在つても都會住民の心理と農村住民の心理とが、殆んど異國人の如く相異なる現時の狀況が革められて、同じ一つの社會内に、都會の文化と農村の文化とが相分れ、一社會内に實質的には二つの異なる

社會の存するが如き状態が打破されて、渾然たる一文化の下に社會の單一性が實現されるやう、一般的な努力が行はねばならぬ。

總べて斯くの如きは、現時の農村問題を根本的に解決する唯一の道であつて、此の根本策の施されざる限り、現今我國に於て議會に建議案として表はれたるが如き種類と程度との農村振興策を以てしては、到底農村問題の解決され得べき見込はない。

然るに若し此の根本的解決の道が忘れられて、或は知つて殊更に避けられて、姑息なる間に合せ策のみ少しばかり行はれ、二階から眼藥式の政策を以て甘んじ、立法者も行政者も乃至一般社會も其日暮を之れ事として居た日には、遠からず農村は救ふべからざる程度にまで荒廢し、農業經濟は到底立行き難き疲弊を呈するに至るを免れ得ないであらう。斯くなるは實に方今の文明と經濟との下に於ては當然の成行で、農村と農業とは現今斯くの如く運命づけられて居るものと見て大過ない。そして農業が或程度以上に疲弊すれば、早速に國民食糧問題は頭を擡げて社會的大困難を將來せないでは措かぬ。此事特に我國の如き國民經濟の實狀に於て其の困難の多大なるべきは絮説する迄もない。然かも困難は之ればかりには止らない。食料問題以外に工業原料の問題も起る、商工業に對する國內市場の問題も起る。然かも亦此種の經濟問題以外に於て、國民生活の上にも、社會心理の上にも、種々の弊風は發生せざるを得ないであらうが、要するに我國の如

き國柄に在つては、農業死滅し農村生活の廢亡に歸したる後の社會生活は、之を想像せんにも想像し得られないほどである。農村が其程度にまで荒廢する傾向を迫て進み行くことになれば、其の實狀の現はれる以前に於て早くも社會經濟は全體として立行き得べからざることとなり、社會生活一般の崩壞を見ないわけには行かぬであらう。

然らば要するに問題は、座して衰亡を待つべきか、姑息の治療に氣を休めて終に病を不治の患たらしむべきか、それとも起つて大いに革新の運動を起し根治の策を講ずべきか、今や時狀は段々に兩者其一を選ばざるべからざるに至りつゝある。そして今や既に問題は、論議の域を通り越して、實行の域に入つてしまつて居る。少しく詳かに農村の實狀を知る者は誰しも其然るを肯んせざるを得ないであらう。私はたゞ徒らに論議の爲めに論議したくはない。荒廢せんとする農村の救済と廢頽せんとする現代文明一般の救済とを衷心より併せ希望するが故に、輒ち茲に問題の意義の重大なる理由と其の對策の根本的ならざるべからざる理由とを明かにする次第である。(完)